京都 KYOTO

不思議ふしぎ!?

京都に隠れた意外な秘密を紹介します

車折神社 空き地の秘密

五月は葵祭の月ですが、ちょっと眼を転じて三船祭の車折神社を採り上げましょう。京福電鉄嵐山線のその名もずばり「車折神社」駅で下車すると境内入口は目の前。参道に向かって左側に緑の空き地があります。ここにかつて何が建っていたかご存じですか？

実はここにはあの有名な落柿舎が建っていたのです。

嵐電「車折神社」駅前の入口　写真左奥がその空き地
中央に建つ社標の裏に鉄斎「帝室芸員」の表記がある

雰囲気あふれる嵯峨野観光鉄板の名所・落柿舎

現在嵯峨野散策に欠かせない観光スポットの落柿舎は、向井去来が住み、芭蕉が元禄四年（一六九一）に滞在して「嵯峨野日記」を認めた落柿舎ではありません。今の落柿舎がある場所は、近江の義仲寺住職だった井上重厚が明和七年（一七七〇）に再興したところなのです。

去来が住んだ初代の落柿舎は臨川寺の東側、下嵯峨村にありました。重厚が再興した現在地の落柿舎は弘源寺の土地で、後に建物もお寺の所有となったため、弘化三年（一八四七）、三代目落柿舎が車折神社の境内に建てられたのです。

落柿舎はその後再び今の場所に戻り、明治四十年頃に雰囲気抜群の現在の落柿舎が建てられたのです。

車折神社の落柿舎があった場所には明治に車折神社の宮司となった富岡鉄斎翁が発見した去来の句碑がひっそりと置かれています。

芸能神社として有名ですが、この鉄斎翁こそ知っていただきたいと思います。

鉄斎翁は当時の日本画家最高の栄誉である帝室技芸員に選ばれながら、本人は「帝室芸員」としか表記しませんでした。これは絵は技術で描くものではなく、教養、人生、つまり画家の境涯すべてで描くものという翁の信念の発露です。

車折神社境内には鉄斎翁の精神が隅々まで満ちています。芸能人の名前が書かれた玉垣を探すだけでなく、境内に残る翁の息吹を是非探してほしいと思います。なお、車折神社にあった落柿舎の建物は、現在とある家の離れ座敷として使われ現存しています。

（同志社大学嘱託講師　堤勇二）

かつて落柿舎があった場所にある
去来の句碑
「柿ぬしや梢はちかき嵐山」

歴史や文化、全てが源流へとたどり着く古都。
京都を知ることは日本を理解すること。

京都好きを大好きに

京都検定
京都・観光文化検定試験
京都商工会議所